
参考資料

2020年東京オリンピック・パラリンピックのビジョン

TOKYO 2020がめざすもの ～ビジョン骨子の要約～

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
その力は、**私たち全員が自己のベストを目指す**ことで生まれます。

アスリート、
テクノロジー、
おもてなし。

すべての分野でその力を最大のものにし、
この世界を大きく前進させましょう。

すべての人にとって素晴らしい世界になるために、
あらゆる多様性を肯定し真の共生社会を実現しましょう。

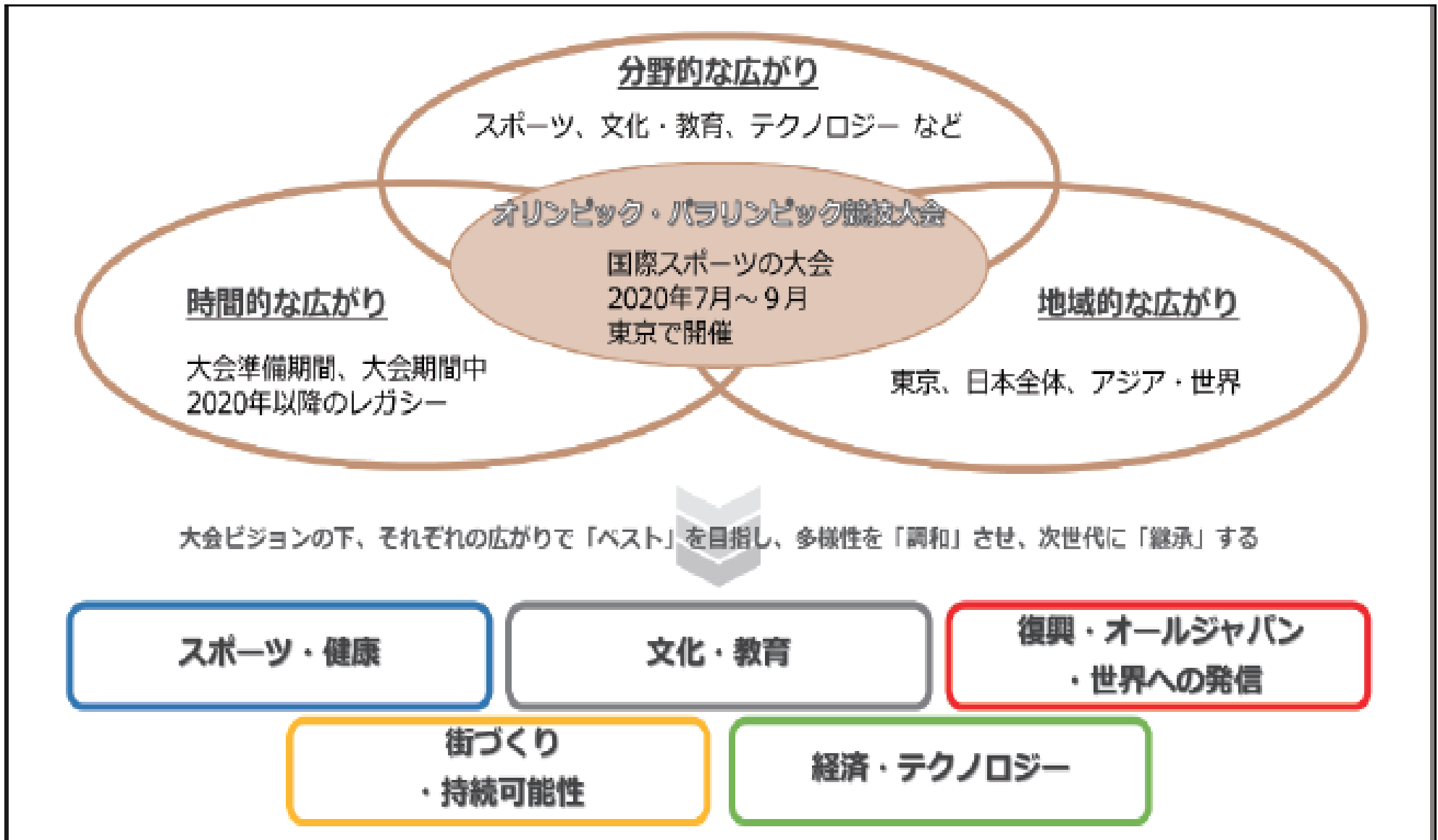
そして、ここで生まれたすべての変革と進歩を
新たなレガシーとして次の世代へ。

1964年、日本を変えた私たちが
2020年、世界を変えましょう。
歴史がもっともイノベーティブな
オリンピック・パラリンピック競技大会だったと記憶するために。

2014・10・10
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

出典：一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (<http://tokyo2020.jp/jp/vision/>) (アクセス日：2015年6月8日時点)

ミッションと主要目標



(出典) 東京2020大会開催基本計画2015年2月、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、P4～P7、P105、P106

ミッションと主要目標（1）

1. ミッション（Mission）

東京2020 大会に関わるリスクを特定、把握するとともに、適切に管理して、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」という東京2020 大会ビジョンの基本コンセプトと目的を実現するよう最善を尽くす。

■大会ビジョン■ 3つの基本コンセプト

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

- ◆1964年の大会は日本を大きく変えた。
- ◆2020年は史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな変革をもたらす大会とする。

2. 主要目標（Key Objectives）

- 大会開催に伴う計画段階から東京2020 組織委員会解散までに想定されるリスクを適切に特定、把握するとともに適切に管理すること。
- 特定したリスクの管理や軽減にあたって、費用対効果を考慮し、各ファンクショナルエリアに適切な助言を行うこと。
- 各ファンクショナルエリアと連携して、適切なリスクマネジメントを実施することにより、リスクの発生の可能性や影響を最小化すること。
- 大会に関わる全関係者のリスクマネジメントに対する意識を高めること。
- 大会の計画段階から発生する事故等に対応するため、適切な計画等を策定すること。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの基本計画

東京2020 大会開催基本計画【2015年2月】 東京2020 組織委員会

その中でも「FA39リスクマネジメント」が、以下の出典の通り、他のファンクショナルエリアの活動における種々対策の優先順位を判断していくための基軸となる活動とされています。また、「FA44持続可能性」も個別の機能として、記載され、また、他の機能にも「持続可能性」の配慮が記載されています。

大会の成功に向けては、開催に必要な様々な機能や業務を特定し、効果的な連携を図って、着実な準備を進めることが不可欠であることから、東京2020 組織委員会では、52 のファンクショナルエリア (FA) を設定し、各々の機能や業務を明確化しました。

(出典) 東京2020大会開催基本計画2015年2月、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、P4~P7、P105,P106

2020年東京オリンピック・パラリンピックの機能一覧

大会を支える機能【ファンクショナルエリア(FA)】一覧			
1	宿泊	27	ライセンシング
2	ア kredィテーション	28	ロジスティックス
3	出入国	29	マーケティングパートナーサービス
4	ブランド保護	30	メディカルサービス
5	大会のブランド・アイデンティティ・ルック	31	NOC・NPCサービス
6	放送サービス	32	オリンピック・パラリンピックファミリーサービス (要人へのプログラム・プロトコール含む)
7	ビジネス開発	33	運営実践準備管理
8	セレモニー	34	パラリンピックインテグレーション
9	都市活動・ライブサイト	35	人材管理
10	都市運営調整	36	計画・調整
11	清掃・廃棄物	37	プレスオペレーション
12	コミュニケーション(デジタルメディア・出版物含む)	38	調達(レートカード含む)
13	コミュニケーション・コーディネーション・コマンド /コントロール	39	リスクマネジメント
14	文化	40	セキュリティ
15	ドーピングコントロール	41	標識・サイン
16	教育	42	観客の経験
17	エネルギー	43	競技
18	イベントサービス	44	持続可能性
19	財政	45	テクノロジー
20	飲食	46	テストイベントマネジメント
21	国・自治体調整	47	チケットティング
22	IFサービス(競技に含まれる)	48	聖火リレー
23	情報・知識マネジメント	49	輸送
24	言語サービス	50	会場マネジメント
25	レガシー	51	会場・インフラ(会場設営・一般的なインフラ含む)
26	法務	52	選手村マネジメント

(出典) 東京2020大会開催基本計画2015年2月、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、P29

ロンドンオリンピック・パラリンピックとISO20121

- Coca-Cola Great Britainが2012年6月にISO20121を認証取得
- 適用範囲は、同社のロンドンオリンピック関連オペレーション
- システム構築&認証取得に向けた活動
 - ①サステナビリティ方針、サプライヤーに対するガイダンス及びマニュアル作成
 - ②入札プロセスにおいて、サステナビリティをコアと位置付けるなどの購買手順見直し
 - ③機能単位の目標及び計画設定、機能単位でのトレーニング資料の作成
 - ④目的に対する進捗確認を行うための四半期毎のサステナビリティミーティング

○ISO20121のメリット

- ①会社のサステナビリティ戦略とロンドンオリンピックに参加する事業会社としての事業活動との効果的なリンク
- ②内部要因：関係者の積極的な関与と、それによる目的達成、自身の責務に対する誓約
- ③外部要因：サプライヤーに対するサステナビリティの重要性についての説得力のある説明と、それによる革新や新技術導入への動機づけ

出典：「オリンピック・パラリンピックのビジネスチャンスとサプライチェーンマネジメント（国際規格：ISO20121）の実践」セミナー（2014年11月14日）（損保ジャパン日本興亜グループ主催）のSGSジャパン株式会社発表資料より

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて

オリンピック開催による組織・事業会社のリスクとチャンス

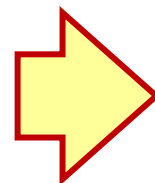
「オリンピック憲章, 2 IOC の使命と役割」参照

13. 環境問題に関心を持ち、啓発・実践を通してその責任を果たすとともに、スポーツ界において、特に**オリンピック競技大会開催について持続可能な開発を促進**すること。
14. **オリンピック競技大会のよい遺産を、開催国と開催都市に残す**ことを推進すること。

具体的な取り組みとしてロンドンオリンピックでは、オリンピック運営組織内に持続可能性チームを発足

持続可能性チームの任務（ロンドン）：

- ①持続可能性を統合すること
- ②2012年ロンドン大会の運営を支援すること
- ③持続可能性に関するストーリーを積極的に発信すること



物理的、経済的、社会的、環境的な影響に配慮した大会運営が重要なミッション

サステナビリティは、2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックや2020年東京オリンピック・パラリンピックにも『**良い遺産（レガシー）**』として継承されていく可能性

調達条件への影響と参加企業の競争・差別化

品質、価格

+

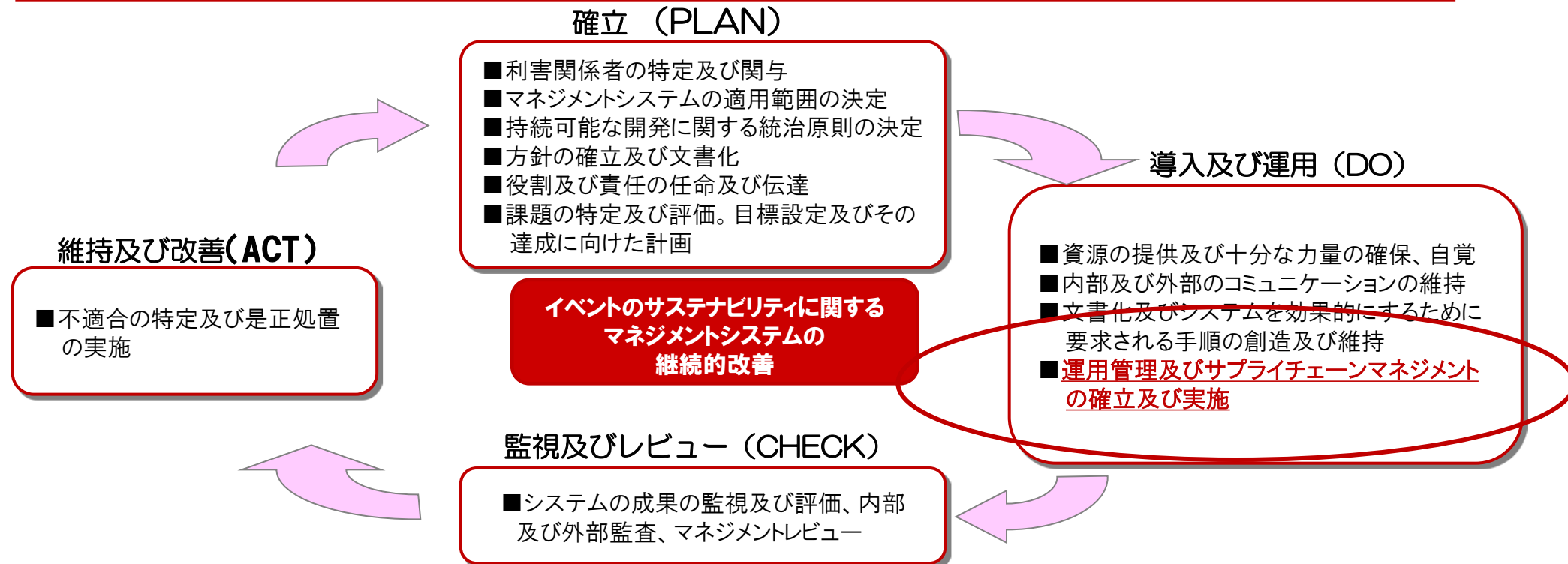
地産地消、倫理的調達、再生材利用、人権、リサイクル可能な製品、トレーサビリティ

- 調達条件の変化によるサプライヤー企業に対する**リスク（チャンス）の増大**
- みずほ総合研究所株式会社の試算によると、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う**経済効果は20兆円～30兆円に上る**

ISO20121の規格概要とその枠組み概要

ISO20121の国際規格概要

- 一つのイベント（行事）でも適用できる
⇒組織で適用し、組織が行う全て、または、一部のイベントに適用することも可能
- サプライヤー/ステークホルダーとの関係を考慮し持続可能なイベントを作り上げる
⇒関連するサプライヤー/ステークホルダーを明確にし、コミュニケーション方法を確立して、イベント運営
- イベントに関連する課題を理解し、PDCAサイクルで継続的に改善する
⇒ISO9001・ISO14001などのマネジメントシステムと課題を共有した一本化も可能



マネジメントシステムのフレームは他のマネジメントシステムと同じ

ISO20121の取り組みパターン

ISO20121の取り組みには3種類ある

イベントの設計・計画に対する取り組み

<適用範囲：特定イベント>

対象となるイベントの開催前に設計・計画に対して審査し、当該イベントに対して第三者認証を発行する

※特例的であり、国際的な大規模イベントとして「2012LONDON OLYMPIC」に適用された事例あり

イベントの設計・計画・運営に対する取り組み

<適用範囲：特定イベントあるいはイベントの一部>

対象となるイベントの設計・計画・運営に対して審査し、当該イベントに対して第三者認証を発行する

※イベントに対する認証審査では、イベント開催中の現地審査を含める必要がある

組織のイベントサステナビリティマネジメントシステムに対する取り組み

<適用範囲：組織、組織の一部あるいはイベント、イベントに関連する組織の一部のサービス>

イベントに対する組織のサステナビリティマネジメントシステムに対して審査し、当該組織に対して第三者認証を発行する

※組織に対する認証審査では、マネジメントシステムの対象となるイベント開催中あるいはイベント関連活動中の現地審査を含める必要がある

ISO20121構築のポイント ～リスクを考える(1)～



サステナビリティを実現を阻害する課題を洗い出して対策を検討する。

検討するリスクのテーマ：

環境

社会

経済

テーマ	リスク要素
環境	廃棄物、騒音、温室効果ガス低減、異常気象への適応、資源活用、エネルギー利用、禁止化学薬品、環境効率、生態系の保護 等
社会	アクセシビリティ、動物保護、地域コミュニティ、差別及び社会的弱者、交通機関、労働安全衛生、労働条件、フェアトレード、人材牽引力 等
経済	ガバナンス、経済信用力、リスクマネジメント、贈収賄及び汚職、地域経済への貢献、反競争的行為、ブランドマネジメント、納税戦略 等

- これら3つのテーマに関するリスクについて、発注者の方針や自社の方針等を考慮したうえで選択し、対応を検討することが重要。
- ISO14001やOSHAS18001のリスクアセスメント結果なども活用可能
- また、認証とは別に既存のCSRの取り組みでもリスク対策の一つとして取り入れることも可能

ISO20121構築のポイント ～リスク管理（2）～

○サプライヤーとのコミュニケーション方法の確立（モニタリング）



➤ 指示命令型アプローチ

サプライヤーへの綿密な管理や統制が必要な場合に実施、チェックリストなどを用いて遵守を要求する方法。

綿密な管理・統制は可能となるが、サプライヤーには必要最低限の事項を求めることになりやすく、サプライヤー独自の活動などが評価対象に上がらなくなる可能性がある。



➤ パートナーシップ型アプローチ

サプライヤーとの関係構築が必要な場合に実施、目標に向かい協働して達成を目指す方法。

長期的には指示命令型アプローチよりも効果的になることが多いが、画一的な管理ではないため多くの経営資源を投入する可能性がある。

○調達後の成果評価方法の決定







➤ 方針や仕様書で定めた内容に基づいて定期的な監視を実施し、活動状況を評価する。

➤ これらの監視活動から、サプライチェーンの成果評価を実施。

➤ 評価結果については発注元への報告内容のインプット情報としてだけでなく、自社独自の評価方法などは『良い遺産（レガシー）』として、継続的な活用が可能となる。

ISO20121 認証取得 検討プロセス

ISO20121 認証取得に必要なESMS構築の検討を要するプロセスは下記の通りです。

STEP1	STEP2		STEP3	STEP4			STEP5	
準備支援	課題の特定および評価		文書策定支援		ESMS運用支援			審査支援
◆ プロジェクトの編成・目的の明確化 	◆ 課題の調査および特定	◆ 課題の評価および管理策の決定	◆ 文書化方針決定	◆ 文書化 	◆ 教育・訓練 	◆ 内部監査	◆ マネジメントレビュー 	◆ 認証機関による審査・認証の取得

※上記スケジュールにつきましては、組織の規模、開始時期や実施タイミングの変更、認証機関とのお打合せによる審査時期変更等により、必ずしも上記内容と合致しない旨、ご了承願います。

ISO20121を認証取得したイベント・組織の例①

イベント・組織	イベント分類・主な業態	国
2012LONDON OLYMPIC (LOCOG)	イベント(スポーツ)	イギリス
GOODWOOD (Goodwood Group of Companies)	イベント(スポーツ)	イギリス
2012/2013世界トライアスロンシリーズ横浜大会(横浜市)	イベント(スポーツ)	日本
2013中台湾ランタンフェスティバル	イベント(フェスティバル)	台湾
2014 Commonwealth Games (Glasgow 2014 Ltd)	イベント(スポーツ)	イギリス
Sydney Festival	イベント(フェスティバル)	オーストラリア
Way Out West	イベント(音楽)	スウェーデン
Rock in Rio 2013	イベント(音楽)	ブラジル
Danish Ministry for the Foreign Affairs	国際会議主催者	デンマーク
Manchester United	主催者	イギリス
UBM Live	主催者	オランダ
Fresh Montgomery Limited	主催者	イギリス
The Brewery On Chiswell Street Ltd	主催者	イギリス
Rugby Football Union	主催者	イギリス
Communication Experience S.r.l.	主催者	イタリア
The Coca Cola Company Great Britain	スポンサー	イギリス

(公表情報からS JNK-RM作成)

ISO20121を認証取得したイベント・組織の例②

イベント・組織	イベント分類・主な業態	国
日本コンベンションサービス株式会社	製作・運営等	日本
Gris Co.	製作・運営等	イタリア
Jack Morton Worldwide	製作・運営等	イギリス
WRG Creative Communication Limited	製作・運営等	イギリス
PWR Events Ltd	製作・運営等	イギリス
Logistik Ltd	製作・運営等	イギリス
Smyle Creative Ltd	製作・運営等	イギリス
DV8 Global Events	製作・運営等	イギリス
Ryan Cleaning	製作・運営等	イギリス
Sunsail Worldwide Sailing Ltd	製作・運営等	イギリス
BE Group	製作・運営等	イギリス
Sportsworld Group Ltd	製作・運営等	イギリス

(公表情報からSJNK-RM作成)

ISO20121を認証取得したイベント・組織の例③

イベント・組織	イベント分類・主な業態	国
Millennium Stadium	施設(スタジアム)	イギリス
ACC Liverpool Ltd	施設(スタジアム、コンベンションセンター)	イギリス
Plaza Athénée Bangkok A Royal Méridien Hotel	施設(ホテル、コンベンションセンター)	タイ
Marina Bay Sands Pte Ltd.	施設(ホテル、コンベンションセンター)	シンガポール
EC & O Venues	施設(エキシビジョンセンター、見本市会場)	イギリス
Venetian Macau Limited	施設(エキシビジョンセンター、コンベンションセンター)	マカオ
Weymouth and Portland National Sailing Academy	施設(会場)	イギリス
Ecosistemi Srl	設備	イタリア
Eve Trakway Ltd	設備(パネル、障壁等)	イギリス
Bunk-A-Bin Ltd	設備(仮設建築等)	イギリス
Fisher Productions Ltd	設備(電源・照明)	イギリス
Smart AV	設備(音響等)	イギリス
PPL Sport & Leisure Ltd	設備(看板、パンフ等)	イギリス
Grisdainese S.r.l.	設備(グラフィックデザイン等)	イタリア

(公表情報からS JNK-RM作成)



SOMPO
ホールディングス